

コピペの協定文

——メガ自由貿易協定の行き詰まりの理由は？

多国籍企業・投資家を優先するルールづくりだということをはっきりしてきたためです。それを許さない運動が広がり、いろんな形で政治に影響しているのだと思います。特に、公共サービスや食の安全、国有企業の問題で企業優先ルールを許していいのかという反

発があります。米国では雇用問題も大きな争点になりました。ISDS条

項に対しては、欧州が問題視しています。市民運動だけでなく、政府や議会も、TPP協

定が規定するようなISDS条項は認められないというスタンスです。

医薬品についてはまさに、命を優先するのか、貿易・企業利益を優先するのかという対立軸が明確になっています。

——多国籍企業はどうしようとしている？

彼らにしてみれば、自由貿易協定は乗り物、入

れ物に過ぎず、自由化を目指す方向と自身は変わ

っていません。さまざま貿易協定を見ても、条文はほぼ同じで、米国の文章が使い回され、コピペ状態です。大手製薬企業は、高価な新薬を開発

し、その特許期間を限りなく延長しよう、いろんな形で追求していま

す。多国籍企業のための自由貿易ルールをつくらう

という動きは、今後形を凌ぎ出てきます。それに対抗する私たちの側の運動、力をどうつけていけるかが問われてきま

す。

価値観の共有を

——運動の側の課題は？

日本では、経済や貿易をなかなか自分の問題と

して受け止めにくい傾向があります。外国企業に自国のルールが変えられた経験がないからかもし

れません。ニュージーランドのように、外国資本労働組合などが監視し、

に規制緩和や民営化を迫られてひどい目に遭った国民は、どうしても反グ

ローバリズムの意識が強くなります。

企業や投資家を悪く見ない傾向も強いですね。トヨタは下請けを大事にしているいい会社だと一

面的な印象がまかり通る。電通の事件を見てもわかるように、大企業は利潤を追求するあまり人権を軽視する危険があります。だから、消費者や労働組合などが監視し、

多様な目線でチェックしていかなければなりません。

自由貿易協定を推進する人たちは、もうけのためには農業や地方を切り捨てても構わないと考え

ています。それでいいのかどうか。低成長時代に、みんなが幸せに暮らすにはどんな価値観、ビジョンを持つのか、運動

する側もそこを追求し、提示して共有していく必要があるのでないでしょうか。(おわり)

命優先の対立軸で運動を